



日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年記念

日本体育協会創立100周年特集号として (財)岩手県体育協会のあゆみ



1970(昭和45)年10月10日第25回国民体育大会、岩手県選手団入場

創 立 昭和6年2月10日

財団法人認可 昭和41年4月

歴代会長	初代	久保豊四郎	昭和6年2月～昭和6年10月
	2代	石黒英彦	昭和6年11月～昭和12年5月
	3代	雪沢千代治	昭和12年6月～昭和15年3月
	4代	山内義文	昭和15年4月～昭和17年5月
	5代	鈴木脩蔵	昭和17年6月～昭和20年3月
	6代	春彦一	昭和21年4月～昭和21年9月
	7代	小泉多三郎	昭和21年10月～昭和27年6月
	8代	二見直三	昭和27年7月～昭和28年12月
	9代	齋藤茂	昭和29年1月～昭和32年3月
	10代	谷村貞治	昭和32年4月～昭和43年4月
	11代	千田正	昭和43年5月～昭和54年3月
	12代	藤原哲夫	昭和54年4月～平成11年4月
	13代	増田寛也	平成11年5月～平成19年5月
	14代	達増拓也	平成19年5月～現在

創立前史

大正初期における学校体育では主として武道教練が行われ、体育にいたってはわずかにこん棒などを使用する体操が行われたにすぎなかった。

一般人の体育もその必要性さえも知る人が少なく、有志によって結成された杜陵クラブなどの愛好者によって行われていたにすぎず、種目別の競技もほとんどみるべきものがなかったのであるが、日本が初参加した第5回ストックホルムオリンピック大会の影響によりスポーツに対する関心が高まり陸上競技などが導入、やがて砲丸投げ等が行われ、中等学校においては競技大会が開催されるなど年々盛んになった。

昭和3年には、岩手県中等学校連合体育会が組織され、陸上競技、野球、武道（柔道、剣道、弓道）、籠球、排球、相撲、庭球、卓球などが開催された。

創立から終戦まで

大正から昭和の時代に入り、本県体育運動の活発化に伴って各種体育施設の整備や民間スポーツ団体の結成も進み、昭和6年初期には50余りのクラブを数えるに至った。そして、これらのクラブ等を統合する団体の結成機運が高まり、昭和6年2月10日、スポーツ団体、教育界、男女青年団、中等学校連合体育会等の関係者が県庁において発会式を行い、「岩手県体育協会」が設立された。

初代会長には、久保豊四郎知事が就任し事務所を県庁学務部内に置いた。

昭和12年に発生した日中事変を境に戦争は拡大し、やがて太平洋戦争へと発展したが、日本の運動競技も次第に戦争色が濃厚となり、学校や一般の運動場は畑と変わり体育施設としての機能を失い、外来スポーツは圧迫されスポーツ界の暗い時代が続いた。

昭和17年、日本体育協会が国策に沿った「大日本体育会」に改組されたのに伴い、本県においても中央の方針にならってその支部となり、「岩手県体育会」と改組された。

また、文部大臣を会長とする「大日本学徒体育振興会」が発足したのに伴い、本県においても支部が結成され、県内中学校、高等女学校が加入して競技会等の行事が行われたが、やがて国防競技や戦技訓練へと発展し戦時一色と化していった。

戦後以降

昭和20年8月15日、太平洋戦争の敗戦により終戦を迎えたが、戦後の混乱した社会からいち早く立ち上がったのはスポーツ界である。本県においても昭和21年4月以来、協会の組織化やスポーツ再建策について関係者の協議が重ねられ、設立準備委員会を経て昭和21年10月、小泉多三郎盛岡市長を会長とする新たな「岩手県体育会」（昭和26年「岩手県体育協会」と改称）が誕生した。こうして戦時中封じ込められたスポーツ熱は学校はもとより一般大衆の間にも急速に高まり、これらの指導や世話を任務とする体育協会は、組織・内容ともに充実して各種スポーツの競技会が数多く開催されやがて、国民体育大会の予選を兼ねた昭和24年の第1回県民体育大会へと繋がっていくのである。

県民体育大会はこれまで競技毎に行っていた大会を統合して郡市対抗制（市町村対抗）を採用し、この年から毎年開催され、逐年その実施種目も増え、参加郡市も選手団も増加し本県最大のスポーツ大会として今日に至っている。

昭和23年には第3回国民体育大会冬季大会スケート競技会が盛岡市高松池で開催されたほか、全日本学生スキー選手権、全国鉄スキー大会などが数度にわたり開催されたほか、陸上、卓球、野球などの種目も相次いで全国大会が開催された。

また、東北大会、国体に多数の選手団を派遣し、多くの優勝・入賞者を出し本県スポーツの地位を高め、戦後の体協発足10年にして多くの成果をあげスポーツに対する県民の理解は一層深まり、ここに本県体協の事業は軌道に乗った感があった。

昭和40年には、岩手県スポーツ少年団本部規程が



国体開催が決まり、県内も運動熱が盛り、エプロン姿でバレーボールを楽しむ主婦たち。—陸前高田市

制定され48団体、1,067団員が加入した。

昭和41年6月、東北各県並びに北海道の協力のもとに第25回国民体育大会開催申請書を日本体育協会に提出、誘致の見通しが確実に伴ったことに伴って、協会の体制強化を図るため、「財団法人岩手県体育協会」とした。財団法人として一新された体育協会は来る第25回国体に向けて選手強化事業の推進を図るためトレーニングセンターの建設に踏み切るとともに、種目別競技団体の育成とその組織強化に力を尽くした結果、傘下の団体は種目別35団体、郡市体育協会26団体、学校体育団体2団体を合わせて63団体となり協会の前途は洋々たるものとなった。



昭和45年、「みんなの国体 のびゆく岩手」をテーマとして、「誠実・明朗・躍進」のスローガンのもと第25回国民体育大会が開催され、県民の温かい支援に支えられた選手たちは日頃のたゆまぬ努力の成果が実り、天皇杯を獲得、県民のスポーツに対する関心は大いに高まり、ホッケー競技会場の岩手町ではホッケー競技が根付き、現在ホッケーの町として多くの選手を排出し続けている。

また、県内各地における温かいおもてなしや花いっ



1970(昭和45)年10月15日第25回国民体育大会、天皇杯を持ってパレード

ぱい運動などの県民一丸となった取り組みは、現在でも一大偉業を成し遂げた県民の財産として刻まれている。

そして岩手国体の成果を以後の国体における好成績に継続するとともに、本県体育スポーツの飛躍的躍進を図るため、本会内に選手強化対策委員会が設置された。

昭和46年1月には本会の財源を審議するため財務委員会が設置され、3月には加入者1,090団体36,000人を擁するスポーツ安全協会岩手県支部が体協内に発足した。

昭和48年、第1回東北総合体育大会の本県開催が、秋田市で開かれた第3回東北6県体育関係者会議で正式決定をみた。これにより、昭和21年以来各県に分散し持ち回りで開催されていた国体予選会兼東北選手権大会は統合され全国に先がけて総合体育大会として実施されることになった。

昭和49年、本県が提唱していた第1回東北総合体育大会が国体予選を兼ねて県内12市町村で25競技が4日間にわたり開催された。また、本県でも日独スポーツ少年団交流が開始され、本県から2名を西独に派遣し同国から17名のスポーツユエントを11日間にわたり盛岡市、矢巾町、山田町に迎えた。

昭和51年、第31回佐賀国体での天皇杯順位は岩手国体以来最悪の29位に低迷したが、翌第32回青森国体ではラグビー、ボクシングの優勝、卓球、自転車等の活躍があって天皇杯順位を11位まで盛り返す健闘を見せた。

昭和54年、岩手のゴールデンプラン推進策の一環として、地域住民の生活における体育スポーツ活動の実地指導と助言に当たるスポーツ指導員の養成のため、養成講習会を盛岡市で開催、5競技117名が受講した、これまでの資格認定者は850名に達した。また、従来のコーチトレーナー部会と新結成の指導員部会が一体となって指導力を強化するため、岩手県スポーツ指導者協議会が発足した。

昭和55年、本県としては2巡目となる第7回東北総合体育大会が県内17市町村で各県から千余名に及ぶ選手団を迎え熱戦が展開され成功を収めた。第36回滋賀国体ではボクシングの完全優勝をはじめホッケー等の活躍が顕著であった。

翌57年の第37回島根国体においてもボクシングは



史上初の 47全都道府県が参加

1988(昭和63)年2月23日第43回国体スキー競技会開会式

完全優勝と連覇、ラグビーも優勝するなど前年を上回る成績を収めた。

昭和59年には岩手県ボウリング連盟が加盟し、競技団体40、市町村体育協会62、学校体育団体2、郡体育協会8の合計112団体となった。また、この年の第39回奈良国体では、自転車、ボクシング、ヨット、ホッケー、山岳、相撲、スキー、アイスホッケー等の活躍により国体順位を前年の25位から15位に押し上げた。

昭和60年、新日鉄釜石ラグビーチームが同志社大学を破り日本選手権大会V7を達成し県民栄誉賞第1号を受賞した。

昭和61年、3巡目となる第13回東北総体が盛岡市ほか県内16市町村で東北各県から7,089名の役員選手を迎え開催され、本県はホッケー、ボクシングをはじめ8競技で1位を獲得するなど、前回岩手県で開催された第7回大会以降では最多の1位入賞数を記録した。

昭和63年本県安代町で開催された第43回国民体育大会冬季大会スキー競技会に向けては、県よりスキー国体選手特別強化費の補助を得て、関係者が一丸となって国体上位入賞を目標に強化を進めた結果、天皇杯得点84点を獲得し総合成績第5位の金字塔を打ち立てた。

平成2年1月に盛岡市、滝沢村を会場として開催された第45回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会では、天皇杯87点12位、女子総合成績(皇后杯)20点16位であった。

平成4年2月にはフランス・アルペールビルオリピックスキー複合団体で本県出身の三ヶ田礼一氏が見事金メダルを獲得し、県内はゴールドメダリスト誕生に沸いた。また、8月には本県での開催が4巡目となる

第19回東北総合体育大会が東北各県から選手・役員・監督7,592名を迎えて開催された。

平成5年、単独開催ではアジア初大会となる'93アルペンスキー世界選手権大会が2月3日から12日間の日程で盛岡・雫石で開かれ、多くの話題と感動を残して終了した。42の国・地域、約700人の選手は過去最大規模のペイル(米国)大会と並ぶタイ記録。観客動員も20万人と予想を上回る盛況だった。

ただ、厳寒の時期にもかかわらず降雨に見舞われるなど気象条件に恵まれない面はあったものの、競技関係者、地元ボランティアの不眠の活躍で盛り上げた大会は、県民の大きな自信となった一方、国際的にも競技関係者から高く評価された。

平成7年、秋篠宮殿下ご夫妻をお迎えしての第33回全国スポーツ少年大会が滝沢村の国立青年の家を主会場に開催された。大会は全員参加の岩手山登山など大自然の中で友情を育むなど参加者にとって思い出多い大会となった。

平成10年、第53回冬季国体「いわて銀河国体」が開催され、スケート・アイスホッケー、スキーに熱戦が展開された。

5巡目を迎えた第25回東北総合体育大会は、「かわがわ・ゆめ国体」の出場権をかけ県内各地で36競技に熱戦を繰り広げた。本県選手団は来年の全国高校総体に向けての選手強化が進む少年勢を中心に各種目で健闘し、5競技で総合優勝を果たすことができた。

平成11年5月、第13代会長に増田寛也岩手県知事が就任、昭和54年から20年間会長を務めた藤原哲夫氏は名誉会長に就任した。

この年8月に開催された岩手インターハイでは金6個、銀6個、銅13個を含む入賞が75種目と過去最高の成績を収めた。

平成14年3月、昭和41年に選手合宿所として開設したが老朽化のため使用できなくなった「岩手県体育協会トレーニングセンター」を改修し本県スポーツ振興の拠点として現在に至る。

平成16年、6巡目となる第31回東北総合体育大会が県下11市9町1村で開催され、本県からは役員・選手・監督1,181名が出場し、総合優勝競技数は5競技と前年同数であったが、ホッケー、ハンドボール、山岳は前年に引き続き連覇を成し遂げた。

平成17年、第60回冬季大会のスキー競技会が安代

町で開催され、全国から2,019名の選手・役員の参加を得て熱戦が展開され本県勢はスキー部門男女総合で前年を2位上回る6位の検討を見せた。

平成19年6月、本県2巡目となる「第71回国民体育大会」開催要望書を岩手県知事、岩手県議会議長及び岩手県教育委員会委員長に提出し、3者はこれを受けて8月に連名で「平成28年第71回国民体育大会開催要望書」を文部科学大臣及び日本体育協会会長に提出、9月には本県開催が内々定の運びとなった。

また、同年4月からは2巡目国体を視野に入れた体協独自の選手強化策「賛助会費選手強化支援事業」が県内有志の強力な支援を得てスタートした。

平成20年、北京オリンピックホッケー競技に富士大学4年小沢みさき選手が出場、久々の本県出身選手の活躍に大きな声援が送られた。

平成22年、エントリー方法に電子申し込みを採用した7巡目となる東北総合体育大会が県内各地で開催された。電子方式による参加申し込みは東北初の試みであり、未知の領域に踏み込む不安もあったが、東北各県の協力と日体協の指導もあって大きな事故もなく無事に大会を開催することができた。

このことは、今後の国体の事務軽減にも寄与するものと期待している。

課題と将来ビジョン

1 将来的には、北国特有の積雪等に影響されないスポーツ環境の整備と科学的なアドバイスが可能な医学センター的な機能を有する施設での競技力向上と生涯スポーツの振興が図られることを切望するものである。

1931-2011 CHRONOLOGICAL TABLE

1931	昭和6	2.10	スポーツ団体、教育界、男女青年団、中等学校連合体育会等の関係者が県庁において発会式を行い、岩手県体育協会設立
1942	昭和17	5	日本体育協会が大日本体育会に改組されたのに伴い、方針に合わない支部となり、岩手県体育会に改組
1946	昭和21	10	戦前の組織を改組し岩手県体育会(昭和26年岩手県体育協会と改称)として発定
		11.1	第1回国民体育大会(京阪神地方)に初参加
1948	昭和23	1.23	第3回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市)
1949	昭和24	9	第1回岩手県民体育大会開催(盛岡市他)
1953	昭和28	1.22	第8回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市)
1958	昭和33	1.23	第13回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市)
1965	昭和40	3.21	岩手県体育協会に岩手県スポーツ少年団本部設置
1966	昭和41	4.27	財団法人岩手県体育協会設立 岩手県体育協会トレーニングセンター建設整備
		1.27	第21回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市・滝沢村)
1967	昭和42	7.10	第25回国民体育大会夏・秋季大会開催正式決定
1970	昭和45	9.7	第25回国民体育大会夏・秋季大会開催(県内25市町村)
1973	昭和48	1.25	第28回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市)
1974	昭和49	9.7	岩手県提唱による第1回東北総合体育大会開催(盛岡市他)
1979	昭和54	1.25	第34回国民体育大会冬季大会スケート競技会開催(盛岡市)
1988	昭和63	2.23	第43回国民体育大会冬季大会スキー競技会開催(安代町)
1990	平成2	1.28	第45回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催(盛岡市・滝沢村)
1995	平成7	7.28	第33回全国スポーツ少年大会開催(国立岩手山青年の家)
1998	平成10	1.24	第53回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催(盛岡市他)
		2.25	第53回国民体育大会冬季大会スキー競技会開催(安代町)
2005	平成17	2.22	第60回国民体育大会冬季大会スキー競技会開催(安代町)
2009	平成21	3.27	第31回全国スポーツ少年団剣道交流大会開催(盛岡市)